

問題	正解	解説
1	A	「geo(ジオ)」は「大地」や「地球」を意味します。「park(パーク)」は公園のことで、「ジオパーク」は「大地の公園」ということになります。
2	B	Aはカルチャー(文化)、Cは地球・地質・地形のことで、Dの「経済的」を意味する言葉は「エコノミック」です。
3	C	新潟県津南町と長野県栄村で立ち上げたジオパークです。近年、「観光圏の整備による観光客の来訪及び滞在の促進に関する法律」に基づき、新潟県南部の魚沼地域及び群馬県、長野県の県境を接する地域「魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町、みなかみ町、栄村」の7市町村を圏域として一体的な観光圏で新たな展開をすることにより地域活性化を目指す雪国観光圏(ゆきぐにかんこうけん)の動きがあり、苗場山麓ジオパークも積極的に関わって活動を進めているところです。
4	C	正解はCのアテネです。アテネの緯度は北緯37度57分です。世界地図で見比べてみましょう。シンガポールは北緯1度のあたりで、かなり赤道に近いところにあります。シドニーはオーストラリアなので南半球です。台湾にある台北は北緯25度あたりで、沖縄本島より少し南になります。
5	D	長野県まで(千曲川)が214km、新潟県から(信濃川)が153kmで、合わせて367kmになります。河川法では、昭和40年3月に一級河川の指定が行われ、その際「信濃川(千曲川を含む。)」とされたので、千曲川は信濃川に含まれ、日本で一番長い川は信濃川となっています。Aは天塩川、Bは石狩川、Cは利根川です。
6	A	ハマナスは、浜(海岸の砂地)に生え、果実がナシに似た形をしていることから「ハマナシ」という名が付けられ、それが訛ったものです。Dは雪国に特徴的なツバキです。B・Cは風穴の周辺によく見られます。
7	C	日本では周年生息(留鳥)し、最も有名な生息地は釧路湿原一帯です。石狩平野の上空を飛来することがあり、鳴き声が聞かれます。2015年5月31日には札幌上空で飛来が確認されました。A・B・Dはこのエリアで普通に見られます。
8	A	結束層は、苗場山麓ジオパークで一番古い地層です。新生代第三紀中新世(今から1500年～1800年前頃)日本海ができたころ、海底に堆積した地層です。主に海底火山の噴出物です。次にDの津沢層→B西田尻層→C魚沼層群の順に新しい地層になります。
9	B	正解はB。Aのサメは清津峡の西田尻層で発見されています。Cのデスモスチルスは、すでに絶滅した大型哺乳類で、ゾウやジュゴンに近いのではないかとされていますが、生態は謎です。Dは、中生代に栄えた螺旋型の貝類です。
10	C	苗場山麓ジオパークで、特に特徴的なのは、SKO30です。魚沼層群の模式地は、信濃川の支流洩海川の支流の芝ノ又川地域です。SKのSは芝ノ又のS、Kは鍵(key)の意味の頭文字からとっています。魚沼層群の上部に挟む特徴的な鍵層からO10～O20・・・130等に記録したものです。
11	C	昭和12年に国指定の名勝天然記念物に登録されました。平成7年に地滑りにより崩落し、すべての滝が埋まりましたが、平成9年の秋に擬岩による砂防ダムが完成し、崩落前の姿に近い形で復元されました。
12	D	正解はD。約220万年前から150万年前には、陸化した関田山脈や中津川・志久見川上流部で火山活動が起きます。溶岩、火砕流、火山泥流などの火山砕屑物は、今の丸山・氷山などの東頸城丘陵の山並みの頂部をつくっています。その一つである山伏山は、信濃川左岸に位置する、標高903mの釣鐘状の山です。この山はかつて現在より大きな山であり、固い山の心棒とも言える火道の部分が残っていると考えられます。
13	C	A・B・Dは、いずれも山伏山の風穴では普通に見られます。Cのゼンマイは冷風の吹き出し及びその周辺には見られません。
14	B	火山活動の年代には諸説あります。古いものからC→D山伏山(220～150万年)→A鳥甲山80万年(一部もっと古いものもある)→B苗場山30万年の順になります。
15	C	古い方からA谷上面・B米原面・D正面面・C大割野面になります。
16	D	氷期・間氷期といった環境変化に伴い、川の働きが変化し、氷期における土砂の流出、間氷期における下方の侵食が進み段丘面ができます。
17	A、D	Aの無斑晶ガラス質安山岩が正解。栄村中野にて採取できます。黒曜石ほど透明度はありませんが、鍍金などに加工されました。Bの砂岩は鍍金には適さない石材です。Cの虎斑石は上野原でとれる溶結凝灰岩です。Dの黒曜石は、苗場山麓ジオパークのエリア内では産出していませんが、石器は見つかっています。(欄外に記しました通り、A、Dどちらも正解です)
18	D	鳥甲山は、白倉山・剃刀岩、鳥甲山、赤倉山を総称して鳥甲山といいます。
19	B	長い布を何枚も垂らしたように見える布岩山ですが、長い布に見えるのは大きな柱状節理です。柱状節理とは、溶岩が冷えて固まるときにできる規則的な割れ目のことを言います。
20	D	苗場山の標高は2145mで、正解はD。A: 布岩山1495m、B: 妙高山2454m、C: 鳥甲山2037mです。
21	B	苗場山の第二期溶岩は、大規模な溶岩の流出がありました。現在の苗場山頂付近から主に北北西方向、龍ヶ窪付近まで流れました。
22	A	Aの魚沼層群が正解。Bの結束層は苗場山麓ジオパーク地域では一番古い地層です。C・Dの地層はありません。
23	D	苗場山の第二期溶岩によってできた柱状節理です。春になると雪や水と一緒に、ガラガラと落ちることから「石落し」という名がついたそうです。

問17※

問17の問題につきまして、解答が複数ある不備が見つかりました。鍍金などの石器はDの黒曜石も出土しており、A、Dどちらでも正解となります。

24	D	Dの文言、実は誤りです。冬期間の太陽の位置は地球に一番近くなっています。
25	B	Bが正解。8000年くらい前から間氷期の温暖化が進み、対馬暖流が日本海の沿岸に雪が多く降り始めていたのではないかと考えられます。
26	A	Bの鳥甲山の溶岩も多少関係しているかもしれませんが、苗場火山の占める割合が多いと考えられます。Dの溶岩はありません。
27	C	地下水中の放射性物質の含有量(半減期)から、湧出するまでの年数がおおよそわかります。
28	C	下の代、中ノ代、上ノ代と呼ばれる3段の地形からなる高層湿原です。
29	B	正面ヶ原D遺跡は、およそ3万年前に人々が生活していた痕跡を残しています。
30	C	江戸時代、文政11(1828)年、文人鈴木牧之は秋山郷を訪れ、風景や人々の暮らしを「秋山記行」と題し、色絵とともに著しました。
31	D	A～Cはすべて発見されていますが、Dのヒスイは出土していません。
32	A	Aの火焰型土器が出土しました。Bは王冠型土器、Cは浅鉢形土器、Dは深鉢形土器です。
33	D	Dの徳川吉宗の生きた時代は1684～1751の江戸時代、300年ほど前です。Aの今井兼平は、平安時代末期の武将ですが、「今井城」の名前の由来だという伝説が残っています。
34	B	母屋がL字型に突き出した部分を「中門」といい、その突き出した部分に馬屋と便所を設け、その先端に主要出入口を設けている点に間取り上の特色があるのが中門造りです。この形式の民家は、日本海側の多雪地帯に発達したもので、長野県では栄村を中心に分布が見られます。
35	A	日本の天台宗は、中国で天台教学を学んだ最澄によって、その帰国後に開かれた宗派です。最澄が中国に渡った際、同じ船団の別の船に空海(真言宗の開祖)が乗っていました。また天台宗の総本山である延暦寺では、日蓮(日蓮宗の開祖)や親鸞(浄土真宗の開祖)も修業をしました。
36	B	眼病に効くということから、メグスリノキが連想できます。
37	D	バナナの主要な産地は中南米です。日本では、フィリピンや台湾などから輸入しています。
38	B	平成23年度の町の統計によれば、米の生産量は7753tです。日本人1人あたりが1年間で食べるお米の量がおおよそ60kgとされています。つまり1万人の町全体では600t食べることになり、米の生産量は町民が食べる量の12.9倍になります。従って、正解はBということになります。ちなみに、お米1俵が60kgです。
39	C	A・B・Dは、いずれも苗場山麓ジオパークの中の温泉です。Cは十日町市(旧中里村)の倉俣地区(芋川)にあります。
40	B	選択肢はどれもまぎらわしいですが、正解はBのむら(農村)です。「美しい日本のむら景観百選」は「農村景観百選」とも呼ばれ、平成3年度に農林水産省によって選定されました。
41	A	Aが正解。新潟県最大と言われる直径2.7mの巨木も見られます。トチノキの他にカツラ、アズサ、サワグルミ、ウダイカンパなどの高木が混生しています。
42	D	A～Cはすべて、地滑りと関係が深いものです。苗場山麓ジオパークには、石灰岩の地層は見あたりません。
43	A	正解は、Aです。このとき、下流の田畑や家屋に被害があったことを栄村で発見された絵図からもわかります。
44	D	A～Cはすべて、ジオサイトになっています。Cは、通常は行けない滝です。Dの白糸の滝は、静岡にあるものが有名ですが、日本各地に同名の滝があり、長野県軽井沢町にもあります。旧軽井沢と峰の茶屋を結ぶ白糸ハイランドウェイ沿いにあり、落差は3 m余りですが、幅は70 mに及び、地下水が源流となっている滝で、雨の後でも水が濁りません。幾条もの白糸のように水が流れ落ちることから命名されたといわれています。
45	C	見倉橋は、2006年毎日映画コンクール日本映画大賞、西川美和監督の「ゆれる」のロケ地として使われました。前倉橋と見倉橋の他には、逆巻と国道405号線を結ぶ猿飛橋が選ばれています。新潟の橋50選の橋のうち当ジオパークに3つもあるのはすばらしいことです。
46	A	Aが正解。一見虎のまだら模様に見えることから愛称がつけられました。Bの讃岐石は瀬戸内海から四国北部に分布する、斑晶が古銅輝石、石基は比較的玻璃質の緻密な安山岩をいいます。Cの八海石は、魚沼市の水無川周辺でとれる岩石です。物は角閃岩です。Dの赤玉石は鉄分と石英が高熱と高圧で結合した石です。最も良質とされるのが佐渡市の赤玉地区より産出されるもので、佐渡赤玉石といえます。非常に硬く(硬度は6.5～7.0)磨いたときに透明感のある光沢がでます。
47	B	Bの57が正解です。この数年の調査で、みどころはふえています。従って、サイトの数も増えることでしょう。
48	A	Aのひんご遺跡が正解です。ひんごの名前は、その地域の愛称です。B・Cは発掘済み。Dの名称の遺跡はありません。
49	B	苗場山麓ジオパークは36番目です。日本国内のジオパークは2015年に3つ増えたので39となりました。今後増えることでしょう。
50	全部	どれを答えても得点です。受検者のみなさんの興味・関心の傾向を知るための問いです。